

1. 暮らしの中の税④



「税金」ってなんだろう？
なぜ、「税金」が必要なのだろう？



みんなで議論してみよう！

みんなで議論しながら、考えをまとめてみよう。

「租税は文明社会の対価である」
オリバー・ウェンデル・ホームズ
“Taxes are what we pay for a civilized society.”



みんなで議論してみよう！

この言葉の意味についても、みんなで議論してみよう。

2. なぜ、税を納めなければならないのだろう？①-1



～税にまつわるエピソード～ 2つのエピソードを参考に考えてみよう。



①【アメリカ独立戦争と税】

「代表なくして課税なし」 “No taxation without representation”

18世紀後半のアメリカ独立戦争は、母国イギリスが行った不当な課税に納得できないということで始まりました。

この不当な課税に対する反対運動の中で、パトリック・ヘンリーらの「代表なくして課税なし」という言葉が生まれました。

この言葉にこめられた、当時のアメリカの人々の※「強い意識」がきっかけとなり、やがて、1776年のアメリカ独立宣言につながります。

※「強い意識」

- 自分たちの代表者がいないところで決められた税は、納める必要がない。
- 自分たちの国を支えるためには、自分たち一人ひとりが税を納めなければいけない。

～ アメリカ独立までのあゆみ ～	
1765年 ●英・印紙条例制定（新聞、書類等への課税）	1767年 ●英・タウンゼント条例（茶、紙、ガラス等への課税）
●印紙条例反対決議案（ヴァージニア植民地協議会代表パトリック・ヘンリーら）	1770年 ●ボストン大虚脱→茶以外の課税停止
→「代表なくして課税なし」	1773年 ●ボストン茶会事件
●各地でイギリスに対するボイコット運動	1774年 ●英・ボストン港閉鎖
1766年 ●英・印紙条例廃止	1775年 ●独立戦争（-1783年）
	1776年 ●米・独立宣言

2. なぜ、税を納めなければならないのだろう？①-2



～税にまつわるエピソード～ 2つのエピソードを参考に考えてみよう。



②【福澤諭吉と税】

1872年に福澤諭吉が発表した『学問のすすめ』の中に、税金とは国民と国との約束であると述べられています。

『学問のすすめ』より

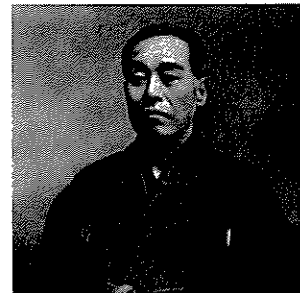
「政府は法令を設けて悪人を制し善人を保護す。これ即ち政府の商売なり。

この商売をなすには莫大な費なれども、政府に米もなく金もなきゆえ、

百姓町人より卒賃^{そくちん}遣上^{しんじやう}を出して政府の勝手方^{かたがた}を脩^{おこ}わんと、

双方一致の上、相談を取極めたり。

これ即ち政府と人民の約束なり。」



資料提供：福澤諭吉旧邸・福澤諭吉記念館

6

2. なぜ、税を納めなければならないのだろう？②



納税の義務は憲法で定められています。



【日本国憲法第30条】

国民は、法律の定めるところにより、納税の義務を負ふ。



みんなで議論してみよう！

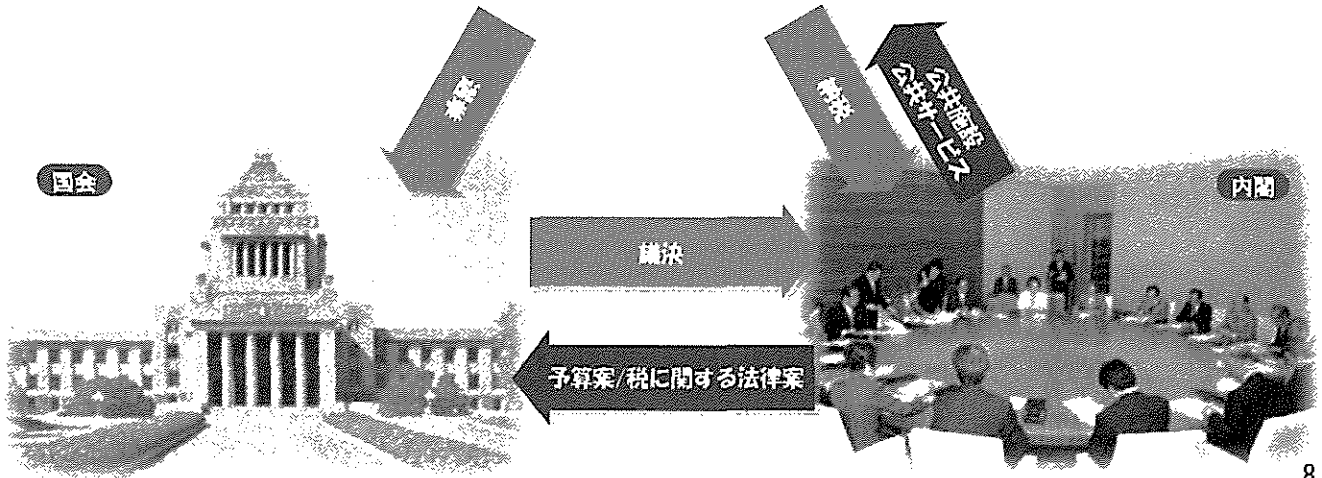
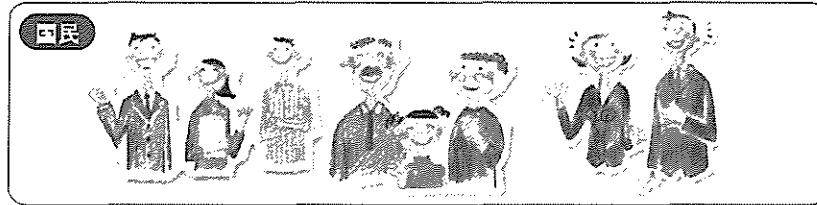
なぜ、「納税の義務」が憲法で定められているのだろう？
みんなで議論してみよう。

7

2. なぜ、税を納めなければならないのだろう？③



税に関する法律（税負担の方法）と税の使いみち（予算）は、国民の代表者である議員が決めています。



8

3. 今までの議論をまとめてみよう



「税金」ってなんだろう。
なぜ「税金」が必要なのだろう。
なぜ「納税の義務」が憲法で定められているのだろう。



今までの議論を振り返ると・・・

今までの議論から「税の本質」が見えてくる。

つまり、
税の本質とは・・・



- 税は公共サービスの対価
- 自らの代表が、国の支出の在り方を決めることと、自らが国を支える税金を負担しなければならないことは表裏一体
- 税の使い道を監視する（関心を持つ）ことも納税者として重要



民主主義の基本

政治への参加と国を支える税金を国民が負担することが、
対になっているのが、民主主義の基本である。

9